書評

「南極で隕石をさがす」

小島秀康著（極地研ライブラリー）
成山堂書店 ISBN：978-4-425-57001-0
発行日：2011/03/28　価格（税込）：2415円　四六判206頁

大澤 崇人[1]

フランス料理のフルコースか，はたまた豚骨ラーメンの全部のせかと思うような，非常に充実した内容の本である．隕石，特に南極隕石に関する和書が極めて少ないだけに，本書の登場は市井の好事家にとってはまさしく福音だ．200ページ弱の限られた紙幅の中で，南極隕石発見の歴史，南極観測隊の編成方法，隕石探査の旅程，キュレーションの内容など，よくぞここまでと思うほど事細かに記載されている．南極観測隊の南極での活動はもちろんのこと，出発前の準備段階についても詳述されており，南極未経験者として非常に興味深く拝読させていただいた．個人的には，やまと・ドーム旅行隊の夕飯の献立が全て一覧表として載せられているのには驚いた．とても美味しそうなメニューが目白押しである．これだけでも南極の隕石探査が身近に感じられるだろう．また，調査旅行の具体的な旅程が詳らかにされていることも特筆に価する．南極の地理に明るい方なら，おそらく完璧に探査ルートを文面から追跡できるだろう．ただ惜しむらくは，小生のように南極に行ったことがなく，さらに遠視（老眼とも言う）の人間にとっては81ページの地図はあまりにも字が小さく，探査ルートを追従することができなかった．また，これは致し方のないことなのだが，できれば全ての写真がカラーであってほしかった．美しい南極の景色が白黒印刷になってしまうと，どうにも歯痒いのである．「やまと山脈の周りには青く見える裸氷が広く広がっている」と記載されていても，衛星写真では灰色にしか見えない．内容が面白いだけに何とももどかしいではないか．

当然ながら隕石そのものに関する記載も充実している．ここで小生は，この本を十二分に楽しむためのアイテムを紹介しよう．皆様の本棚の片隅で取り出されることもなく朽ち果てているであろう南極隕石カタログを引っ張り出してきてほしいのだ．小生の場合，本書の中でも度々登場する矢内桂三先生から頂いたまま漬物石になっていたPhotographic Catalog of the Selected Antarctic Meteoritesや Catalog of the Antarctic Meteoritesなどの南極隕石のカタログを机の脇に積み上げておき，本書中で正式名が書かれていない隕石が登場するたびに該当隕石をカタログから探し当てた．こうすれば，なるほどここで述べられているのはこの隕石であるな，と一人ほくそ笑んで勝ち誇った気分に浸れるという寸法だ．おそらく該当隕石の専門家か筋金入りの隕石オタクであれば，こんなことをするまでもなく正式な隕石名をそらんじておられるのだろうが，小生が覚えられるのはせいぜい般若心経と実家の電話番号程度であるのでカタログに頼らざるを得ない．また隕石の写真が本書に載せられているが多くは白黒写真であるので，先のカタログか南極隕石ラボラトリーのホームページでカラー写真を見たほうがより深く本書を味わうことができよう．

最後に，キュレーターの本音が垣間見える一言で本稿を締めくくりしたい．「（薄片の）貸し出し期間は，基本的に一年程度としているが，なかなか守られていないのが現状である．」丁稚に出された薄片が著者の元へ無事に帰れることを祈るばかりである．

1. 独立行政法人　日本原子力研究開発機構
osawa.takahito@jaea.go.jp